### 平成22年第1回定例会

# 三 沢 市 議 会 会 議 録

## 第3号(平成22年3月12日)

### 議事日程

第1 市政に対する一般質問

本日の会議に付した事件 第1 市政に対する一般質問

出席議員(20名)

議長 1番 馬 場 騎 君 副議長 17番 本 弥 君 Ш 2 番 瀬 禬 雅 弘 君 3 番 奥 本 菜保巳 君 君 4番 加 澤 眀 5番 鈴 木 重 正 君 光 彦 君 6番 藤 田 7番 間 則 君 天 勝 之 君 8番 太  $\blacksquare$ 博 9番 附 田 君 雄 堀 君 10番 光 洋 子 君 11番 春  $\Box$ 坂 篤 君 12番 野 司 13番 西 村 盛 男 君 14番 小比類巻 正 規 君 小比類巻 雅 彦 15番 君 見 16番 舩 亮 悦 君 18番 堤 喜一郎 君 19番 小比類巻 種 松 君

欠席議員(0名)

説明のため出席した者(26名)

20番

市 長 種 市 君 正 長 和 則 市 大 塚 君 澤 正 君 政策財政部長 義

森

 $\equiv$ 

郎

君

総 務 部 長 I 藤 智 彦 君 生 部 子 君 民 長 宮 祫 倫 健康福祉部長 米 -郎 君 田 光 済 嶋 経 部 桑 豐  $\pm$ 君 長 設 部 長 吉 田 幸 男 君 建 上下水道部長 月 孝 君 館 政策推進監 野々宮 忠 良 君 商業活性化推進監 古  $\blacksquare$ 清 孝 君 政策財政部参事 佐々木 卓 也 君 兼政策調整課長 政策財政部参事 冨  $\blacksquare$ 哲 君 兼基地涉外課長 総務部参事 今 村 哲 也 君 兼秘書課長 建設部参事 中 悦 西 敬 君 兼都市整備課長 務課 繋 範 雄 君 ごみゼロ推進課長 大 野 博 君 隆 栄 産業政策課長 小 松 君 中心市街地 立 祫 裕 輔 君 活性化推進室長 栄 土 木 課 長 松 島 正 君 三沢病院事務局長 大 澤 裕 彦 君 \_ 消 防 長 糸 井 健 君 教育委員長 君 熊 野 稔 教 育 長 吉  $\blacksquare$ 健 君 育 長 中 君 教 次 村 健 燞 杳 委 員 佐 治 孝 君

#### 職務のため出席した職員

務 局 長 Ш 代 — 男 君 長 # 次 村 拓 司 君 長 君 庶 務 係 河 村 健 康 主 吾 君 查 織 笠 信 主 海 事 鳴 拓 君 午前10時00分 開議

議長(馬場騎一君) 定足数に達しておりますので、3日目の本会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付しております 議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政に対する一般質問 議長(馬場騎一君) 日程第1 きのうに 引き続き、市政に対する一般質問を行いま す。

12番野坂篤司議員の登壇を願います。

12番(野坂篤司君) おはようございます。市民クラブの野坂篤司が、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

三沢市の人口動態を見ますと、昭和10年9,378人、昭和15年9,884人、昭和21年、いわゆる戦争が終わったときでありますが、1万1,370人、それから10年たって昭和30年、3万2,851人、そして現在は4万3,000人の人口を数えるようになっております。いわゆる人口が4万3,000人台を有する都市になりました。

この人口動態を見ますと、昭和21年、アメリカ第8軍技術大隊が三沢に駐留したことと、昭和29年、航空自衛隊北部訓練航空警戒隊が移駐したこと、その二つのことが大きな要因であることがわかります。

私の父親も、昭和17年に三沢海軍航空基 地隊ができて、商売になることを見込んで青 森市から三沢に店を構えた一人であります。 そして、そのまま海軍の飛行場から米軍の飛 行場になり米軍基地ができたのであります。 当時、全国から同じような目的で、商売する 人や基地建設従業員及び基地従業員の方々が 集まったと聞いております。このことは、だ れが見ても基地の存在が経済波及効果をあら わした結果だと思います。

先日、日米エア・フォース友好協会、いわゆるJAAGAというメンバーの主催でありまして、沖縄の基地の中の米軍施設、いわゆる米軍嘉手納基地研修に参加させていただきました。その米軍嘉手納基地司令官ウィルズ

バック准将の講話の中で、嘉手納基地の経済 効果は約3,000億円であると紹介されま した。さらに、今いろいろな場面で騒がれて おります名護市には、沖縄北部振興対策費と して毎年100億円の補助金が交付されてい ると聞いております。約8年間続いていると 聞いております。

一方、三沢基地では、米海軍第7艦隊哨戒 偵察部隊27名が厚木に移り、自衛隊では北 部航空警戒管制団第1移動警戒隊40名が、 3月に千歳基地に移動すると報道されており ます。

私は、基地に対して特定の思想や賛成反対 について論ずるつもりはございません。た だ、単純に三沢市の経済という観点からとら えてみたいと思います。

そこで、基地対策問題として質問いたした いと思います。三つ質問させていただきま す。

はじめに、一つ目として、現在、三沢市に 自衛隊及び米軍基地が存在していることによ り、基地交付金、いわゆる国有提供施設等所 在市町村助成交付金や米軍用地提供地主の地 代、基地従業員、自衛隊給料などを含めた経 済波及金額は年間どのぐらいの金額になって いるか、伺いたいと思います。

2番目として、昭和40年、米軍F-10 2戦闘要撃中隊引き揚げにより、当時2万人 いた米軍人が1万2,000人減少したとい うことがございました。その5年後の昭和4 5年に、基地従業員1,057名の大量解雇 という事実が過去の歴史にありました。私が 24歳のときです。時代は変化しています。 自衛隊や米軍基地が三沢市から撤退したとし たら、経済波及は金額にしてどのぐらいにな るか、伺いたいと思います。

3番目として、私も小さいながら会社経営者の一人であります。会社を経営するときは、必ず長期計画を立て、実行計画に基づきシミュレーションをしてみるわけであります。決してよいときばかりの計画をつくっているわけではありません。例えば、店を撤退

する場合もあります。そのシミュレーション も、会社としては、やっているわけでありま す。三沢市の経営者は市長であります。三沢 市の経営計画として、基地が存在したときと 存在しないときの両面からシミュレーショ ン、いわゆる想定書をつくり、市民に公表す る考えがあるかを伺いたいと思います。

次に、エネルギー問題について質問させて いただきます。

新聞、テレビなどいろいろな報道を通して、マスコミは毎日のようにオバマ大統領のグリーン・ニューディール政策を報道しています。私は、この政策に世界の未来が同調し、新しい経済の流れができる予感を感じています。それは、石油消費文化から脱石油文化を目指しているからであります。

アメリカの最大の悩みは、テロによる戦争であります。中東各国による石油紛争の火薬庫から抜け出ることが一番のねらいであります。つまり、石油を買わないことで、オイルマネーがイランやアルカイダに集中しないようにするためであります。だから、オバマ大統領は、石油を使わないエネルギーを未来の主流にし、新たな世界のリーダーを目指していると聞いております。三沢市政も、世界的視野を持たなければならないと思うのであります

このように、世界的な視野から未来予想を 積極的に考えると、日本の未来は非常に明る いものだと思います。日本の得意分野である 原子力発電、太陽光発電、蓄電技術などの分 野が伸びる産業として考えなければ、時代に 乗りおくれるのであります。

前回の議会でも取り上げましたが、三沢市は環境・エネルギー産業創造特区に指定されているむつ小川原地域及び八戸市の一員であります。しかしながら、三沢市だけにエネルギー関連産業及び施設がありません。独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、通称NEDO技術開発機構から、平成22年度地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定事業の公募がインターネット上で

予告されております。三沢市も世界の潮流に乗りおくれないように、積極的に新エネルギー関連にかかわるべきと思いますが、NEDOの公募について並びに新エネルギー参入について、三沢市の今後の方向性と市長の考え方を伺いたいと思います。

次に、道路問題について伺います。

三沢市には国道338号や中央町商店街の 県道、市役所通りの市道などがありますが、 日常生活の中で、国道、県道、市道に、一般 市民の方は特別意識的に考えながら利用して いる人はいないと思います。しかし、除雪や 道路工事になると、だれの管理なのか、各種 の問題が出てきます。

ある道路の除雪に対して聞くと、そこは県 道だからとか、国道だからなどと、いろいろ な説明がわかりづらいことがあります。市道 は三沢市がつくり、三沢市が管理するので説 明もわかりやすいのですが、県道、国道につ いてどのように管理され、だれが責任者なの か、非常にわかりづらい点があります。

そこから、2点の質問をいたします。

一つ目として、道路問題が発生したとき、 国道や県道の管理、施工など、市道と国道及 び県道に対する三沢市のかかわり方について 伺います。

二つ目として、その観点から、主要地方道 三沢十和田線古間木橋の橋梁かけかえ工事、 いわゆるJRにかかる新町の鉄橋でありま す。あの橋は、私が中学校1年生のときに完 成した鉄橋ですから53年たっていて、耐用 年数もかなり過ぎていると思います。バスの すれ違いもできないようです。県のほうか ら、一応あの辺の町内の方に説明がありまし た。工事施工の予算がついたということです が、お金がないということで先延ばしにされ ております。

町内の該当者は、いつ引っ越しなのか、商売を続けるべきなのか、その路線にかかわっている人たちは大変悩んでおります。市としても、地域の道路として積極的に要望しなければならないと思いますが、三沢十和田線橋

梁かけかえ工事の進捗状況と今後の見通しを 伺います。

次に、教育問題について伺います。

中国古典菜根譚の中に、「花三態」という 文章があります。「すぐれた人格によって得 た地位名誉は野山に咲く花。放って得た地位名 は鉢植えので、ご主人の気持ち次第では は鉢植えので、ってられたり。権力にとり、たちれたり。権力にとりであるとりであるとす。この言葉は、教育の日的は「恕」、かりのことであると教えています。 国民を幸せにもするし不幸にもします。 国民を幸せにもするのます。 国民を幸せにもするのます。 ます。のます。

江戸時代の寺子屋は、読み書き、そろばんを基本にし、一番大切な公の心を教えました。公の心とは、親を大切にし、お世話になった周りの人を大切することで自分を磨くという教えです。つまり、ありがとうの心であります。

昨年12月議会において、吉田教育長が新しく誕生いたしました。人格、識見優秀で、市民待望の教育長誕生と、大いに市民は期待しております。吉田教育長の教育に対する考え方、夢、希望、教育理念を伺いたいと思います。

次に、二つ目として、22年度は種市市長が市長就任後4年目を迎える年度であり、教育行政にも力を入れると聞いております。第三中学校の建てかえ、小中一貫教育の準備も始まります。平成22年度の教育行政をどのように現実化していく考えなのか、教育委員14年、教育委員長3年、教育行政を17年経験している熊野教育委員長に伺いたいと思います。

次に、三つ目として、「弁当の日」につい て伺います。

「弁当の日」は、平成13年、香川県綾南

町、現在は綾川町となっておりますが、当時、綾南町立滝宮小学校の竹下和男校長先生の発案で始まりました。以来、全国に波及し、現在は全国39都道府県578校の学校が取り組んでおります。青森県では、むつ地域の小中学校7校が取り組んでおられます。

私がなぜ「弁当の日」を取り上げたかと申しますと、弁当にはありがとうの心がたくさん入っているからであります。食育食育と声高に叫んでいても子供の心に響かないのであります。食事は、自分でつくって食べて、そのありがたみがわかるのであります。

滝宮小学校で行われている「弁当の日」は、5年生、6年生だけで行われていますが、やり方としては、1学期に家庭科でなぜ「弁当の日」が必要かをきちっと教えます。そして、2学期から1カ月に1回、自分で弁当の献立や盛りつけをデザインし、絵にかいたりします。それで、家で調理し弁当を持っていく、そういう「弁当の日」であります。

子供たちの感想は、自分でつくる弁当はおいしいとか、毎日食事をつくってくれるお母さんは偉いとか、たくさんのありがとうの言葉が書かれているといいます。このことが本当の食育なのだと私は思います。

私の本職は余り知られていませんが、本当は調理師であります。いわゆるコックさんであります。調理師は、毎日、命のあるものを食材として扱っています。つまり、人間がつくったものは何もありません。キャベツーつとっても、天地、自然から命をいただいたそのものであります。人間は、何もないところから命をつくれないのであります。そのことだけでも実感として子供に伝わる教育が大切なのではないでしょうか。

三沢市の教育に「弁当の日」を設けるべきであると思います。「弁当の日」についてどのように考えているか、伺いたいと思います。

最後に、「いただきます」という詩を朗読 して、質問を終わらせていただきます。

「いただきます」、6年青木裕香子。

ごはんを食べるとき、手を合わせて「い ただきます」っていわなければなりませ ん。無着先生が そう教えました。それは どうしてでしょう。無着先生は「生きもの は食わなければ死ぬ これは法則です。こ の法則に例外はありません 人間は ごは んとか パンとか 牛肉とか お魚とか 野菜とか そういうものを食べています よーく考えてみてください。ご飯はお米の 命です。パンは麦の命です。牛肉は牛の命 です。お魚も野菜もみんなみんな生きてい たのです。そういう生き物の命を食べて 人間は生きているのです。だから 生きて いるっていうことは 殺しているっていう ことなのです。 だから 手を合わせるの です だから必要以上食べてはいけないの です。必要以上食べれば 必要以上殺す事 になります。人間は お米や 麦や 野菜 や 牛や お魚の命で生かしてもらってい るのです」 こんなふうに教えてくれまし た。 私は 本当だと思いました。気もち 悪いって言った人もいたけど 私にはよう くわかりました。ごはんを食べるとき 手 を合わせて「いただきます」って言うの は あなたの命を いただいて 生かして もらっていますっていうことなんです。 ありがとうございました。

議長(馬場騎一君) ただいまの12番野 坂篤司議員の質問に対する執行部の答弁を求 めます。

市長。

市長(種市一正君) お答えいたします。 ただいまの野坂議員さんの御質問のうち、 エネルギー問題については私から、その他に ついては副市長及び教育長ほか関係部長から お答えさせますので、御了承願いたいと思い ます。

昨今の地球温暖化防止策といたしまして、世界規模で $CO_2$ 削減のためのさまざまな取り組みが行われておりますが、政府は、2020年まで $CO_2$ の排出量を1990年比で25%削減するという目標を掲げ、将来に

わたって強く推進していく立場をとっているところであります。このことから、今後、国におきましては、この高い目標を達成するためにも、単にCO₂排出事業が、排出量を抑制するための技術革新を図るだけではなく、太陽光、太陽熱、風力、バイオマスのような再生可能なエネルギーと言われる新エネルギーというものですが、この活用、推進については、積極的に取り組んでいくものと予想しております。

当市といたしましても、青森県の環境・エネルギー産業創造特区の区域内に組み込まれていることもありまして、積極的にこの新エネルギーの導入とその活用方針についての検討を行ってきたところでありまして、これまで、主に太陽光発電の関連分野に的を絞りまして、その分野における先導的な企業から情報収集を重ねてまいりました。

その結果、まずは当地域に存在する太陽光などの新エネルギー賦存量の調査を行って、これにより得られるデータをもとに、企業等の導入の可能性や、そしてまた、問題点の洗い出しが必要であると、このよう考えるに至ったところでありまして、議員さん御質問の新エネルギー・産業技術総合開発機構、通称NEDOが募集する平成22年度の地域新エネルギー・省エネルギービジョンの策定を行いたいと、このように考えております。

つきましては、今月下旬に始まる当事業の 公募に向けまして、現在、申請の準備を進め ているところでありますので、御了承願いた いと思います。

私からは、以上であります。

議長(馬場騎一君) 副市長。

副市長(大塚和則君) 基地対策問題についてお答えいたします。

第1点目の自衛隊及び米軍基地の所在による三沢市の経済効果についてでありますが、 当市の平成20年度決算で申し上げますと、 基地に起因する歳入といたしまして、国有提 供施設等所在市町村助成交付金、いわゆる基地交付金が約20億円、そのほか基地関係の補助金・交付金が、各会計分合わせて約42億円、合計62億円となっております。

また、市内在住の自衛隊員及び米軍日本人 従業員への給与が推定で年間約150億円、 市内の米軍借り上げ住宅に支払われる家賃が 推定約14億円、その他として、金額は不詳 でありますが、基地からの工事の発注や物品 購入、基地内に所在する民有地へ支払われる 土地使用料などがございます。

次に、自衛隊及び米軍基地の存在がないことによる三沢市の経済波及につきましては、今申し上げました三沢市の歳入がなくなると思われるほか、仮に基地の用地すべて返還された場合は、そのほとんどを占める国有地部分からの歳入がないものと想定されるところであります。

次に、三沢市の経営計画について、想定書をつくり市民に公表することにつきまして、 基地の及ぼす経済への影響は、あらゆる分野 及び実態をとらえることは極めて難しいもの があります。また、基地の及ぼす経済への影 響とともに、市全体の経済状況を把握することは不可能と考えられるところであります。 このようなことから、総合的な調査・分析を 検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 建設部長。

建設部長(吉田幸男君) 議員さん御質問の3点目、道路問題の1点目、国道及び県道の管理・施工責任についてお答えいたします。

三沢市内には、唯一の国道として338号がおいらせ町方面から六ヶ所村方面へ海岸沿いを縦走しております。この338号は、国道でも国から維持管理費等の補助金を受け、県が管理する国道となっております。

県道につきましては、おいらせ町方面より 三沢駅東口前、本町朝日印刷前及び一方通行 蛯沢商店前を経由して東北町方面へ続く八戸 野辺地線、十和田市方面から三沢駅を経由し、商店街を通って四川目の国道338号に至る三沢十和田線、この路線のバイパスとして、第2みちのく有料道路方面からおいらせ町鶉久保、木崎野温泉前、ミス・ビードルドームを経由して本町朝日印刷前を上がってくる八戸野辺地線に至る路線、三沢駅前より六戸町金矢方面へ向かう三沢七戸線の主要地方道4路線があります。

また、一般県道としては、浜三沢の三沢製材所前交差点から根井、谷地頭を経由して、国道338号に至る天ヶ森三沢線、ミス・ビードルドーム、深谷町内を経由して三川目の国道338号に至る大町三沢線の2路線があり、主要地方道4路線、一般県道2路線の計6路線が県道であります。

また、国道及び県道の管理・施工責任につきましては、道路に関しての認定、管理、保全などについて定めた道路法の規定によりその道路の管理者が施工し、管理責任を負うものとされております。

次に、2点目の主要地方道三沢十和田線の JRにかかる、通称跨線橋と呼ばれている古 間木橋のかけかえ事業の進捗状況についてお 答えします。

古間木橋のかけかえ事業は、管理者である県の事業であることから、県に確認をしたところ、現在の古間木橋は昭和29年に供用が開始され、既に50年以上経過しているため橋の老朽化が著しいことから、JR及び通行車両等の安全確保のため、平成17年度に事業着手、平成18、19年度に道路・橋梁設計及び地質調査を行い、平成20年度から用地交渉が始まっており、現時点での事業費の進捗率は約7%とのことでございます。

今後の見通しにつきましては、現在、国において補助金が新交付金に移行するため制度設定の作業中であり、見通しは不透明な状況となっておりますが、まずは事業用地の確保に努めたいとの回答をいただいているところでございます。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 教育長。

教育長(吉田 健君) 教育問題の第1点目、教育に対してどのような考えを持っているかについてお答えいたします。

私が学校現場にいた折に、野坂議員さんに 生徒のインターンシップ事前講話をお願いした際に、生徒に、ビジネスマナーとして、あいさつの大切さ、ありがとう心をお話しして、おいただきました。それ以来、私は行く先「いただきました。それ以来、私は行て、「ないさった」という素直な心、「済みません」という素直な心、「済みません」という素直な心、「私がします」という奉仕の心、「ありがというよりいきを全生徒に周知りない。ころであります。

さて、私は、三沢市総合振興計画に基づで、記でではないでは、三沢市の基本理念「人とまち」みんなで創る 国際文化都市」をより実効あるものにするため、平成22年度より、三沢市教育委員会経営方針スローガンを「地域が創る」「教育は人づくり」に掲げ、子供には夢を、子して、学校、はに喜んでもらえる教育環境づくります。このため、学校、のを連携協力を、三者一体となり構築するでものであり、特に家庭教育で一番大切なことは、しつけ力の向上が重要であるとばいまります。

以上のことから、三沢市の教育環境を創造し、総合した教育力を日々向上させながら、知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(健康で活力のある体)の充実を図り、調和のとれた人材育成を目指してまいりたいと考えております。

次に、教育問題の第3点目、食育の実践としての「弁当の日」につきましてお答えいたします。

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に

伴い、偏った栄養摂取、朝食の欠食などの子供たちの食生活の乱れや肥満傾向の増大、過度の痩身など、健康に関してはさまざまな問題が指摘されております。このようなことから、子供が将来にわたって健康に生活するためには、子供に対して食に関する指導を充実し、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせることが重要な課題となっています。

平成17年に施行された食育基本法を踏まえ、各学校におきましては、給食の時間を中心に、教育活動全体を通して、食に関する指導が行われているところでございます。

加えて、県の事業であります青森っ子食育サミットに、毎年、市内の児童生徒と教諭が参加したり、学校教育センターの栄養士による延べ37回の食に関する出前授業、並びに「お弁当をつくろう」というテーマを含めた調理実習も3回実施しています。

食育指導の実践として、香川県綾川町立綾上中学校長の竹下和男氏が、9年前に全国ではじめて提唱した「弁当の日」への取り組みについてでありますが、これは、小学校高学年の児童が年間数回、自分で弁当をつくるというものであり、中学においても広がりを見せております。この実施に当たりましては、児童生徒に対する学校内の取り組みにとどまらず、家庭からの理解を得るなど、家庭、地域との連携協力体制を整えることが大切になってきます。

引き続き、学校におきましては、教育の指導を通しまして、食事の重要性の認識、食品を選択する能力の育成、食物や食物生産者への感謝の心の育成、食事のマナーなどの社会性の育成、食文化への理解を図るとともに、家庭にもスキルの伝達として親子で食事をすることの大切さ、休日におて家族で食事をすることの大切さ、休日における食事の準備は子供が主に行うことや校における食事の準備は子供がきながら、学校におけるは、調理実習で年3回弁当をつくろうという日を実施しておりますが、家庭において

も、自分でつくった弁当の持参の日につきま して検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 教育委員長。

教育委員長(熊野 稔君) それでは、教育問題の第2点目、三沢市の教育行政をどのように現実化していくのかという御質問にお答えいたします。

三沢市教育委員会は、昨年12月21日付 で吉田健を新教育長に選任し、早速、1月か ら来年度の基本方針について、定例教育委員 会をはじめ会合等を持ちまして協議を重ねて まいりました。その結果、新年度の三沢市教 育委員会の経営方針スローガン「地域が創 る」「教育は人づくり」をもとに、平成22 年度三沢市教育委員会施策の方針としては、 時代とともに変化する社会に対応する教育環 境の創造並びに子供の夢実現をはぐくむこと を使命とし、豊かな心と郷土に対する誇りを 持ち、健康で創造性に富み、新しい時代を主 体的に切り開く市民の育成を目指した教育の 推進に努めるとし、特に、三沢市の教育力と 文化を生かしながら、次の7項目を重点的に 推進することといたしました。

まず一つ目には、一人一人の主体的な学習と社会参加の推進。二つ目、個を生かし、生きる力と夢をはぐくむ学校教育。三つ目として、社会教育推進のための基盤整備。四つ伝える貴重な文化財の保護・保存と活用。5点目として、活力と感動を生み、元気をは理解をして、活力と感動を生み、元気をは理解をして、異文化理解をして、異文化理解を担けたりまして、情報活用とネットワークコミュニケーションを目指す情報といたしまして、情報活用とネットワークコミュニケーションを目指す情報といたしました。

教育長を中心とした事務局及び市内の小中学校や関係団体、あるいは、青森県教育委員会をはじめとする関係機関と連携しながら、三沢市の教育行政を現実化してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 12番。

12番(野坂篤司君) 3点、再質問させていただきます。

最初、国道のことについてでありますが、 私が聞くところによると、国道とか県道とか 市道というのは一般の人はわかりません。い ろいろな意味で、それを役所に電話すると、 たらい回しに遭ったりする可能性が、この間 もあったということです。

例えばホテルのフロントに電話すると「わかりません」という答えはまずないのですよ。「はい、わかりました。それぞれを調べてあした何時までにお答えいたします」、電話すると「これ、おらほうでないんだよ回の性に関して出るのです。何とかひとつ、道路問題に関して出ているですが、電話番号は何番ですか、何はいっただければいつですか、電話番号は何番ですか、何様でいっただければいいないうことで、そういうシステムがということで、そういうしたいと思います。

それから、2番目ですが、先ほど教育長から大変丁寧なお言葉をいただきました。教育長のしつけ力、家庭の教育が大事だという話、私も全くそう思って親親教室をずっと続けてまいりました。36歳のときから、夫婦円満、親孝行というのを根本に据えて、いわゆる家庭がちゃんとしていなければだめだということが教育の基本だと私は思っているわけですね。そのことから、今非常に難しい問題が出ているのですね。

ここに、選択的夫婦別姓制度いうのがあります。これは、かなり厳しいものだなと私は思っているのです。新聞紙上には、夫婦が結婚時に同じ姓にするかを柱とする民法改正案を法務省がまとめ、千葉大臣が閣議決定を目指しやっているとなっております。私は、かなりこれは教育的に問題があるのではないか

なというふうな感じがいたします。なぜかというと、親子で名前が違うわけですから。まして、私の基本的な幸せという定義は、相うとを幸せにした分しか幸せになれないというとを感じております。相手とは何かさんが自己には、まずだんなであります。と、結婚した場合には、まずだんなであると、といが、こんなにうちんのですると、あるなどのがにないかないと、こうではなるが非常によいなのだったら、だんなうのが非常によいかないと、こうによいないうことで、「夫婦別姓、おら知らなと、と言っていれば、大変なことになるなど。

新教育長に大変申しわけないのですが、選 択制夫婦別姓についてどのような見解を持っ ているか、お尋ねしたいと思います。

それからあと一つ、食育の話ですが、「弁当の日」ですけれども、検討したいということでした。検討したいということは、前向きなのか後ろ向きなのか、この辺を最後にお答えいただきたいと思います。

この三つ、お願いします。

議長(馬場騎一君) 建設部長。

建設部長(吉田幸男君) 道路問題の再質問についてお答えいたします。

苦情の処理についてでございますが、市内に国道、県道、市道とありますが、国道、県道は、先ほど申しましたように、十和田市にございます上北地方県民局地域整備部道路施設課が担当課となっております。

ただ、住民の方については、国道とか県道の区別がつかない場合もございますので、市民の方から苦情が来た場合については、市役所土木課で一たん受け取りまして、さらに県民局のほうに苦情を伝えております。

また、道路に関する全般的な苦情について は、土木課のほうで受け付けております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 教育長。

教育長(吉田 健君) 再質問にお答えし ます。

第1点目、選択制夫婦別姓制度についてで

ございます。

先ほど、野坂議員さんからお聞きしていま して、不易の言葉なのですが、一つの言葉が 頭によぎりました。御大切、これは昔の言葉 で、求婚の言葉。私はあなたを命をかけて一 生大事にします。あなたの家族をも大切にし ます。ですから、私のところにお嫁さんに来 てくださいと。そうすれば、あえて自分も相 手から大切にされ、また、家族からも大切に される。御大切という言葉がよぎったわけで すが、そういうふうな観点からいきますと、 不易の部分からいきますと、選択制の別姓制 度については、やはり子供からの視点を考え れば、保護者、お父さん、お母さん、おじい さん、おばあさんは同じ名前であったほう が、私は心が一つになる大きな要因ではない かと思います。

ただ、昨今、社会の変化の激しい時代でございますので、さまざまな理由で、父親、母親の名前を変える。これは、少子化等の問題等もあると聞いております。そういうようなこともございますが、教育的な立場から言えば、子供の立場から考えれば、やはり同じ名前で、野坂家の長男だよと、次男だよと、お父さんはよいお父さんですよと、そのほうが私は本当に温かい家庭ができるのではないかなと思っています。

それから 2 点目、「弁当の日」でございますが、やるかやらないかということで、究極の質問なのでございますけれども、食育の実践としては、家庭でつくる、自分でつくった弁当の持参の日と、これが野坂先生の趣旨ではないかなと思います。これにつきましては、各学校を通して、やはリPTAでの話し合い、それから家庭の意見、学校の先生方、授業での取り入れ方等を十二分に調整した上で、なおかつ各家庭の環境も考慮して検討してまいりたいなと思っております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 12番。

12番(野坂篤司君) 再々質問させていただきます。

先ほど建設部長から回答がありましたが、 私が先ほど提案しまして、対応するということは、受け付けをして、改めて確認して相として、はい、承りました」で終わるのかということがでいただきたいないで、その辺をもう一度確認をしたい。 電話が行った場合には、先ほど私が言いたように、一応聞いて「それは国道なのでするがあるには、たまさのですりたいともであるが本当の市民サービスなのです」と言うので終わってしまわないように、その辺も確認したいと思います。

それから二つ目として、「弁当の日」ですが、別にすぐやれとは言っていません。前向きに検討するでいいわけですから、ここ一、二年、3年かけても、何とか前向きにやりたいというものであれば大変いいなと思いますので、その辺をもう一回お答えいただきたいと思います。

議長(馬場騎一君) 答弁願います。 建設部長。

建設部長(吉田幸男君) 道路問題の再々質問についてお答えいたします。

議員さんは、ホテルのフロントみたいな対応をできないかということでございます。なかなか人によっては対応がまずくなっている場合もあるかと思いますが、その方向でやらせるように指導してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

議長(馬場騎一君) 教育長。

教育長(吉田 健君) 再々質問にお答え します。

「弁当の日」でございますが、全校一斉とはなかなかいかないと思います。試験的にモデル校を学校にお願いしまして、その中でまた検討していきたいなと思っております。ひとつよろしくお願い申し上げます。

議長(馬場騎一君) 以上で、12番野坂 篤司議員の質問を終わります。

それでは、一般質問を次に移ります。 6番藤田光彦議員の登壇を願います。 6番(藤田光彦君) おはようございます。6番、民主党の藤田光彦です。通告に従いまして質問させていただきます。

まず、中心市街地活性化についてお伺いい たします。

私は散歩が大好きで、時々アメリカ村に立ち寄ります。大通商店街から歩いてアメリカ村へ入っていくとき、たびたび考えるのです。西洋風な家々が建ち並ぶこの空間は、一体ここを訪れる人々に何を発信しているのかと。そして、ある日ふと感じたのです。ここはディズニーの世界ではないかと、夢と冒険の世界ではないかと思ったのです。古ぼけて、これ以上変わりようがない町並みが、あっという間に訪れる人に夢と冒険を感じてもらえるアメリカ村へ変わったのです。

さて、平成18年発刊の三沢市史をもとに アメリカ村への道のりを簡単に振り返ってみ ますと、アメリカ村構想は、厳しくなる中心 商店街の商業環境を評価するため、平成元年 に青森県と三沢市そして市商工会が行った三 沢市商店街診断が原点となっております。そ れによると、中心商店街の活性化には、各商 店街の個性化、歩道や駐車場の充実によるゆ とりある空間の創造、組織活動の強化などが 必要であり、三沢のこれからの方向性は、市 の特色であるアメリカンカラーを取り入れた 専門店や飲食店から成る地域型商業を目指す こととなっております。その当時の三沢の現 状を客館的に分析し、これからの発展の方向 性を的確に見通したものでした。これらの提 案をもとに、ビードルプラザやビードルドー ムが建設され、また、三沢パティオフェスタ やハロウィーンフェスタなど新しい企画を立 ち上げ、その目指す方向性への実験的事業活 動とともに、商店街の活性化を図っていった のです。

さて、平成10年になって、国は、全国の中心市街地の衰退に対処するため中心市街地 活性化法を制定し、補助金による支援策を打ち出しました。これにより、三沢市は翌年、中心市街地活性化基本計画を策定しました。 その基本計画の趣旨は、三沢市の特色を生かした、国際色豊かでにぎわいのある商業空間の創設で、その拠点として、国際交流や観光機能を持たせたアメリカ村建設の構想が動き始めたのでした。

そして、市商工会は三沢市TMOを立ち上げ、また、地元商店街はまちづくり委員会をつくり、その構想を実現するため、国の補助金を得てアメリカ村は平成14年に着工となったのです。そして、その活動の中で、地元商店主によってMGインターナショナル株式会社が設立され、アメリカ村の拠点してMGプラザが建設されることになりました。こうしてMGプラザまでの流れを見てみますと、21年前の三沢市商店街診断で提案された方向性から決してずれていないことがわかります。

今、MGプラザは足踏みしていることから、いろいろ批判的な意見が聞こえてきますが、三沢市の特色を生かした市街地活性化という原点から真っすぐに論理的な線を引っ張っていくと、アメリカ村構想を通り、その拠点としてのMGプラザにたどり着きます。その方向性は間違っていないのです。

さて、MGプラザのMGはメーンゲート、つまり表玄関のことで、市外、県外、それから国外から三沢へ訪れる人々を迎える表玄関という意味づけを持っております。当初、考えられたアメリカ村の拠点というだけではなくて、三沢市の情報発信の場であり、市街地活性化の一拠点でもあり、観光の出発点であり、そして三沢市の個性をアピールする場でもあります。

このように多様な機能を持つMGプラザは、残念ながら今、出だしでつまずいています。このことから、商工会は、企業主体の経営立て直しのため国と協議し、また地元の農業、漁業団体からの支援を求めていくことを表明しました。

市は何もしないでよいのでしょうか。既に 1億3,900万円もの多額な補助金を拠出 しております。このことによって、MGプラ

ザに対する市の政治的及び道義的な責任がよ リー層深まりました。ここで今、市ができる ことは、MGプラザ支援キャンペーンを立ち 上げることではないでしょうか。MGプラザ の今の困難な状況を十分に市民に説明し、説 明不足だったため、冷笑的で懐疑的だった市 民の理解を深め、MGプラザに対する連携と 支援を促進していくことではないでしょう か。支援キャンペーンは、募金でも1口株購 入でもよいのです。集まるお金の多少に関係 なく、市民がMGプラザと結びつく機会を与 え、三沢の名誉と未来に関心を持ってもらう ことが大事だと思うのです。市は、「人とま ち みんなで創る 国際文化都市」を総合振 興計画の中で掲げております。今まさにその 理念が試されています。

アメリカ村は、夢と冒険の世界になりました。MGプラザは、その夢と冒険の世界の表玄関となることを担っているのです。市民の活力を呼び込んでMGプラザを成功させるため、市民キャンペーンを立ち上げることについてどのようにお考えか、お聞きいたします。

次に、国際文化都市としての町並みについてお伺いいたします。

当市の目指す国際文化都市、この前の一般 質問で、この言葉は語彙矛盾であると申し上 げましたが、この言葉を国際的と文化的に分 け、この二つの言葉に対する私のイメージを 追っていきますと、国際的とは、散歩してい ると向こうから外国人がやってきてあいさつ する場面、外国人が食事しているテーブルの 隣で食事している場面、彼らの子供と自分の 子供が公園で一緒に遊んでいる場面、彼らと とともにイベントを楽しんでいる場面やミー ティングで話し合っている場面、つまり、彼 らと私たちが共有するさまざまな場面が日常 的に見られる環境であることです。三沢では 既によく見かける光景です。そして、文化的 とは、人々が高い道徳観と倫理性を持って生 活を送っているということです。礼節を重ん じ、お互い尊敬し合い、まちは秩序正しく、

清潔で整然としていることです。

さて、国際文化都市をそのようにイメージ してみて、そのイメージに市の町並みを照ら し合わせてみますと、改善すべき点が見えて きます。

そこで、3点お伺いいたします。

まず、町並みの色彩についてです。チョコ レート色のガードパイプ、白いガードレー ル、赤茶色のごみ収集容器、私たちはわび・ さびの文化の継承者で、派手な色や模様を自 然と避ける傾向を持ちますが、国際都市を掲 げる三沢市としては余りに精彩に乏しく感じ られます。日本人は白と黒とシルバーの色し かつくらないのかと、あるアメリカ人はから かいますが、私たちは本当に色に関して保守 的で、遊び心がありません。やはり、国際文 化都市にふさわしい個性的なまちづくりのた めには、色彩に富んだ町並みをつくらなけれ ばならないと思います。大空のまち三沢であ りますので、スカイブルーを市の色と制定 し、その色を中心にいろいろな色を使って、 明るく楽しい町並みにしていったらどうで しょうか。

次に、英語表示について伺います。

市は、平成19年から、公共施設や道路標識など英語表記事業及び英語表記看板設置促進事業を通じて、外国人への利便性を向上させるとともに、三沢らしい国際色あふれるまちづくりを行っておりますが、事業の進捗状況はどのようであるか、お伺いいたします。

そして最後に、ごみ集積容器についてお伺 いいたします。

先ほど、文化的とは何かについて私なりの 説明の中で、まちの秩序正しさや清潔さを取 り上げましたが、市が提供するごみをカバー する網は、カラスよけの効果もなく、周りの 環境を汚し、不衛生であると思っています。 そして、何より網でごみを囲むという手段に 文化的であるということが少しも感じられな いのです。確かに、財政的な問題や設置場所 の問題で、ごみ集積容器が設置できない町内 会があると思いますが、文化的な都市を目指 す市としては、市民が納得するごみ集積容器 の設置の仕方などを考えて、設置率を上げて いかなければならないと思いますが、現在の 設置状況はどんなものでしょうか。

以上で質問を終わります。御答弁、よろし くお願いします。

議長(馬場騎一君) ただいまの6番藤田 光彦議員の質問に対する執行部の答弁を求め ます。

市長。

市長(種市一正君) お答えいたします。 ただいまの藤田議員さんの御質問のうち、 英語表記看板などの設置状況については私か ら、その他については関係部長からお答えさ せますので、御了承願いたいと思います。

まず、当市では、国際文化都市としてふさわしい町並みの創出を図ることを目的といたしまして、平成19年度及び20年度の2カ年にわたりまして、英語特区まちづくり事業として、市内の公共施設や主要な道路に英語表記の看板を設置するなどの事業に取り組んでまいったわけであります。

具体的に申し上げますと、平成19年度は、市役所及び公会堂の入り口への英語表記を行ったほか、小中学校や市街地の公共施設、公園など、計30カ所に英語と日本語を併記した看板を設置したわけであります。また、100円バスの停留所の英語表記や車内での案内放送に英語を加えるなど、外国人の方でも利用しやすいようにいたしているところでもあります。

平成20年度には、主要道路の愛称を広く市民の皆様から募集いたしまして、外国人にもわかりやすい愛称を決定した上で、主要道路の5路線、計19カ所に日本語と英語での愛称を表記した看板を設置したほか、市民の森の公園内にも英語を併記した案内板を設置いたしております。

このように、当市が計画した事業につきましては、(仮称)アメリカ村区域内の店舗案内板の設置を繰り延べしたものの、それ以外の事業はすべて完了いたしておりますが、今後

におきましても、国際文化都市にふさわしい まちづくりに努めてまいりたい、このように 考えておりますので、御理解を賜りたいと思 います。

私からは、以上であります。

議長(馬場騎一君) 民生部長。

民生部長(宮崎倫子君) 国際文化都市としての町並みについての3点目、ごみ集積容器の設置状況についてお答えいたします。

ごみ集積容器の数につきましては、平成20年の定例会での御質問にお答えいたしました704カ所から60カ所増加して、現在は764カ所となっております。集積容器が設置可能な場所については、ごみ集積容器設置助成金を活用していただき、徐々にネットから集積容器に移行している状況であり、今後も町内会に対し助成金の活用を呼びかけ、集積容器設置箇所の増加に努めてまいります。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 建設部長。

建設部長(吉田幸男君) 国際文化都市としての町並みについてのうち、第1点目の市の色などを制定して町並みを色彩豊かにしてはどうかについてお答えいたします。

当市を訪れる方々に対し、確かに町並みは 三沢市の顔であると市といたしましても認識 しておりますし、また、特色ある町並みをつ くり個性を主張することは重要なことと考え ております。しかしながら、色彩に関する好 みは人によって異なります。その中で、市の 色を指定し市民の皆様を指導していくという ことは、個々の好みに対し行政が干渉するこ とになると思われます。

例えば、宣伝用の看板などは、程度はありますが、視認効果を期待する上では目立つほうがよいわけであります。それを同一の色にするよう指導した場合、所有者等の方々の御理解を得られるか、非常に難しい問題と思われます。

以上のことから、御質問の件につきましては、さまざまな角度から研究する必要があるものと考えております。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 経済部長。

経済部長(桑嶋豊士君) 中心市街地活性 化についての御質問にお答えいたします。

MGプラザの状況につきましては、去る3月2日に、MGインターナショナル株式会社の代表取締役社長と商工会長のほうから、議員の皆様に対し御説明がなされたところでありますが、MGプラザの今後の方向性につきましては、現在、国との協議を重ねているところであり、その結果を踏まえた上で、商工会が中心となって再生に向けたあり方を確立することとなっております。

市といたしましても、MGプラザは、平成19年11月に内閣総理大臣の認定を受けた、三沢市中心市街地活性化基本計画の目標達成に不可欠な事業として位置づけておりますことから、当該施設の存続と円滑な運営を確保することにより、計画目標を達成する必要があると考えております。

議員さん御質問のMGプラザ支援キャンペーン立ち上げの御提案に関しましては、平成19年に行われた市民アンケート調査で、中心市街地の活性化は必要だと答えた方が約9割近くおり、その理由として、中心市街地に活気がないと市全体が衰退すると、多くの市民の方々が不安を感じていることなどから、市といたしましては、市民参加型のまちづくりを推進する上で、御提案された方策は有効な手法の一つであると考えております。

しかしながら、先ほど御説明申し上げたとおり、MGインターナショナル株式会社から 三沢市商工会が支援要請を受け、再生のため の方策について国と協議をしているところで もありますことから、市といたしましては、 これらの協議が調い、方向性が見出された時 点で、支援キャンペーンの可能性について、 事業者と一体となって検討してまいりたいと 考えております。

議長(馬場騎一君) 6番。

6番(藤田光彦君) 再質問させていただ きます。 M G プラザですが、本当に建設的な見方を 表明していただきましてありがとうございま す。

この1年間は、MGプラザの事業に対してほとんど市民が参加していなかった。それは民間だから仕方がないと思いますけれども、これからは市がもっともっと積極的に関与していかなければならない。なぜならば、そういうキャンペーンを行うための機動性は市が一番持っているわけですから、そういう意味で、市がもっと関与していかなければならないと思いますけれども、1点だけお伺いします。

1億3,900万円拠出しました。このことの意味合いをどのように解釈しているか、 ちょっとお聞きします。

それから、ごみ集積容器の設置状況についてお伺いいたします。

約2年間で60もの集積容器が設置されました。大変効果があると思います。しかし、 まだまだ私にとっては納得しないものがあり ます。

というのは、この間、スティルウェル司令 官がここへ来てあいさしたときに、基地は 住むアメリカ人一人に大使としての自覚 を持って行動してくれと言っていたのです。 それに対して、やはり三沢の市民は市民として 合った、そういう自覚を持ってほしいと私に 思っているのですよ。特にゲート前の通りに 思っているのですよ。特にゲート前の通りに もごみの網が設置してある、それから一番街に もごみの網が設置してある、そういうとので ありまして、ですから、もっともっとホスト 市民としての自覚を促す、そういうことを していと思っております。

それから、英語道路表示の件ですけれど も、ほとんどこれは終わっていると伺いまし たが、この事業に対する市民の反響とか訪問 者の評価、そういうのは聞こえてきています かどうか、お伺いいたします。

議長(馬場騎一君) 答弁願います。

経済部長。

経済部長(桑嶋豊士君) MGプラザの市補助金の意味合いでありますが、これにつきましては、MGプラザの建設の中身は、3階のコミュニティ集会施設ということで、地域住民のコミュニティ活動の場として3階が利用されるということになっておりますということになっております。MGプラザの市民の建設の中身は、3階の日米支がのではますということで、有助の中身がそういうふうな形になっております。

議長(馬場騎一君) 民生部長。

民生部長(宮崎倫子君) 再質問について お答えいたします。

一番街、それからゲート前のごみ集積場所のネットの件でございますけれども、あの地域につきましては、現在、ポールなどはその日に出して、ごみを出していただいたら、またその日のうちに別なところにしまうと、そういうような体制をとっております。それが全部できているわけではないのですけれども、主にそういう方向で今動いているところでありまして、ごみの集積容器についても、今後はそれを設置するような方向で、現在、町内会と調整中でございます。

以上でございます。

議長(馬場騎一君) 政策財政部長。

政策財政部長(澤口正義君) 英語表記看 板に関する再質問に私からお答えいたしま す。

お尋ねございました市民の評価そして反響ということでございますが、市民の評価につきましては、現在のところ、それらを目的としたアンケート調査なりをしているわけではございません。これは今後の課題とさせていただきますが、ただ、言えますことは、よそからおいでになりました皆様方の三沢市の町並みに関して言う言葉でございますが、一様

に、三沢はちょっと違うなと、いろいろなことがあるなと、アメリカらしいなということがたくさん聞かれている状況でございます。

いずれにしましても、繰り返しになりますが、特に市民の評価という部分につきましては、今後のこともございますことから、何らかの形で検討してみたいと考えておりますので、御了承いただきたいと思います。

議長(馬場騎一君) 6番。

6番(藤田光彦君) MGプラザについて 再々質問させていただきます。

先ほどの私の質問の仕方が多分理解できなかったと思うので、答弁が私にとって何かよくわからなかったのです。

私の先ほどの質問は、拠出金1億3,90 0万円出したことに対する意味をどのように 解釈したらいいか。つまり、私が言いたいの は、1億4,00万円ほど出した意味合い は、市は二つの責任を負ったということなの ですよ。一つは、情報公開です。何が今MG で起こっているか、これを的確に順次市民に お知らせする説明責任を持ったということな のです。今までは企業体、民間が主体だから 民間に任せていたと。拠出金を出した時点 で、もはや市が説明責任を負ったということ なのですよ。もう一つの責任は、市は絶対M Gプラザを失敗させないという責任を持った ということなのですよ。これを失敗させるこ とは市民にとっては納得できないわけです。 1億4,000万円も払っているのですよ。

だから、この二つの責任を持ったということを理解しているのかどうか、聞きたいのです。

議長(馬場騎一君) 経済部長。

経済部長(桑嶋豊士君) 再々質問についてお答えいたします。

補助金を出したということは、それらの責務を負うということでありますが、これはまた当然のことであります。

市としましては、三沢市の中心市街地活性化のために、例えば歩行者量、あるいはまた消費販売額、それからまた居住人口の増とい

うことでにぎわいを創出していきますという ふうな形で、三沢市中心市街地活性化基本計 画を策定しております。

そのような意味で、計画の達成に向けまして、今、議員さんがおっしゃったような責務を負っているわけでございますので、この実現に向けまして、今後とも努力してまいりたいというふうに思っております。

議長(馬場騎一君) 以上で、6番藤田光 彦議員の質問を終わります。

議長(馬場騎一君) 以上で、本日の日程 は終了しました。

なお、明日から17日までは、特別委員会 審査のため、本会議は休会となります。

次回本会議は、18日午前10時から会議 を開きます。

本日は、これをもって散会します。

午前11時25分 散会